



高槻五領住宅
ふれあいリビング「五領けやき館」

ふれあい喫茶を中心に、読書や音楽観賞ができる趣味のコーナーをはじめ、毎日の健康チェックに役立つ健康相談室など、いろんな設備が充実している「五領けやき館」。裏庭のハーブ園もなごみの空間として親しまれています。

ハーブ園ではカモミールなど22種334株を育てていて、摘み立てのハーブで作ったハーブティーをサービス



▲住民の憩いの場になっている喫茶コーナー。ボランティアさんも一緒に話ができます



喫茶コーナーとは別に設けられた健康相談室。いつも喫茶の帰りに血圧を測定する高齢者も

運営委員長の木村節男さん
今年6月4日で1周年を迎えました。周辺に住民や地域のふれあいの場がなかったこともあり、地域住民の「オアシス」となっています。児童遊園と隣接しているので、お母さんたちが遊園で子どもが遊ぶのを見守りながら、くつろぐこともできます。また、市立公民館が団地の隣にあり、イベントやサークル活動の後に立ち寄っていただくなど、気軽に利用してもらっています。

また、地域の方に提供していただいたカラオケ機器を設置し、毎月1回「カラオケの集い」を開催。将来は「五領けやき館」のホームページを開設して、ふれあいの様子を発信していけたらと思っています。



運営委員長の木村節男さん



笑顔つながる——
地域の「ふれあい拠点」を訪ねました
「ふれあいリビング」を訪ねました

急速に進む社会の高齢化——府営住宅における高齢化も例外ではなく、周辺市街地よりもさらに進んでいるのが現状です。高齢者が部屋にひきこもりたり孤立することなく、いつまでもいきいきと活動的に地域活動や趣味の集まりに参加できる場があれば……そんな思いから生まれたのが、「ふれあいリビング」です。

現在、府域の3住宅に設置され、自治会や地域ボランティアのみならず、自主的な取り組みにより運営されています。喫茶コーナーをはじめ、各種教室や催しも開催されるなど、「ふれあいリビング」は今、高齢者が気軽に集まれる場所のみならず、地域の誰もがくつろぎ、楽しめる「ふれあい拠点」となっています。



金岡東第4住宅
「ふれあい・リビング花水木」

オープンから、あっという間に1年。今日も入れかわり立ちかわり次々にお客さんが訪れる「花水木」のふれあい喫茶。ボランティアさんの笑顔と訪れる人たちの明るい声で、とても和気あいの雰囲気です。

「1日に2回に来るんですよ」。「ここに通いはじめたら体の具合も良くなって…」ふれあい効果はパツグンのよう



▲手づくりの案内板。1つ1つ文字を切り抜いて作りあげた力作です



「花水木」のパワーの源。ボランティアさんたち。「忙しいけど、心にハリが持ってきて楽しいですよ」



運営委員長の志賀 勇さんとボランティアの増田千津子さん
高齢の入居者の孤立などが目立ちはじめ、自治会としてもなんとかしなければ、と思っていたところに「ふれあいリビング」建設のお話をいただいて……。とにかく人に集まってもらうことを目標に、開放的なふれあい空間づくりを進めてきました。ボランティアのみならず、協力的な高齢者も通りの盛況ぶりです。喫茶はご覧のとおりです。

今後はボランティアの増員とともに、どれくらいふれあい活動の幅を広げていけるかが課題。住民・地域のみならず、声を聞きながら計画を立て、実行していきたいと思っています。



下新庄鉄筋住宅
ふれあいリビング「下新庄さくら園」

「いらっしやい！」の掛け声に続いて、「おはよう」「ずっと顔見ひんかったから心配しとったんよ」…そんな言葉が飛び交う「下新庄さくら園」。大きな窓からさんさんと差し込むあたたかい光が人々の笑顔を含みます。



運営委員の和南治子さん
平成12年5月にオープンし、今年で3年目を迎えました。1年目は試行錯誤の運営で大変でしたが、喫茶コーナーが予想以上に多くの方々に利用していただくなど、2年目からは、運営も軌道にのってきました。

周辺道路に面した場所にあるので、団地以外の人も散歩の途中にふらっと立ち寄ってくれたり……。ふれあいの輪がどんどん広がっていき、ふれあいの輪がどんどん広がっていき、ふれあいの輪がどんどん広がっていき……。今、「さくら園」は地域の財産。私自身もみなさんが喜んでくださる顔を見ると心から嬉しくて、逆にパワーをもっている感じがします。この施設をもっと利用して、自治会やコミュニティ活動も充実させていけるよう、がんばっていきます。

度々、開演用創すま一度を利も、まり一室品、てでも月に数作、見と欲高月手催しに意ます

ボランティアの方々1日2~3人ずつ交代で入っています。カウンターのボランティアのみならず、高齢者も多いとか

▲カウンターとは別に広調回な設備の分月1回「給食サービス」も大人なので、調理も大変です

注)この記事は、2002年夏号のふれあいだよりに掲載されたものです。内容は、すべて掲載当時のものです。